

令和7年2月定例会 一般質問（概要）

令和7年3月7日6番

坂上 敏也 議員



（坂上 敏也議員）

大阪維新の会大阪府議会議員団の 坂上 敏也でございます。通告に従い、順次質問をさせていただきます。

1 万博のインパクトを活用した水都大阪の魅力発信について

まず、水都大阪の魅力発信について、お伺いします。府では、大阪・関西万博を見据え整備を進めています、「中之島ゲートサウスピア」を4月6日にオープンすると発表されました。海船と川舟の乗換えができる公共船着場の整備により、バイエリアと大阪市内の中之島や道頓堀などが船でつながるようになります。

また、万博開催時には、中之島ゲートから夢洲までの間を、国内初の旅客船用の水素燃料電池船が航行することも岩谷産業から公表されています。

前兆33m幅8m 2階建て
定員は150人。時速20kmで、
中之島ゲートとユニバーサル
ポート間が20分ユニバーサル
ポートと夢洲間が20分で航行できます。

この施設は公共船着場に加え、レストランでは和食、洋食、浜焼BBQが楽しめます。多目的広場、プレジャーボートの係留施設等を備えており、水都大阪の新たな拠点のひとつになるものであります。万博期間中だけでなく、閉幕後も多くの海船と川舟双方の観光船が往来することを期待しています。

そのためには、水辺のにぎわい創出や水都大阪の魅力発信など、多くの方に船に乗ってみたいと思ってもらえるような仕掛けづくりが大変重要ではないかと思われます。

そこで、この中之島ゲートサウスピアの整備のほか、万博、さらに万博後に向けて、水都大阪にどのように取り組んでいくのか、府民文化部長に伺います。



【松阪府民文化部長】

水都大阪の魅力発信については、この3月中旬より、万博会場と大阪市内を結ぶ舟運ルート沿いで、大規模なウォーターショーなどを演出する「OSAKA リバーファンタジー」を実施するほか、来年度には、道頓堀や中之島などの観光スポットを観光客が気軽に船で周遊できるよう、水の回廊を周回する航路の創出に向けた社会実験等を行っていく。

また、中之島の夜間景観を彩っている、堂島川等の護岸に設置したライトアップ施設をさらに充実させ、世界に誇る「水と光のシンボル空間」となるよう、大規模なリニューアルに向けた調査検討を実施していく。

こうした取組みにより、万博期間中はもとより、万博後も、多くの方が大阪を訪れ、水都大阪を楽しんでいただけるよう、水辺のにぎわい創出や魅力の発信に取り組んでまいります。

(坂上 敏也議員)

大阪・関西万博の開催やそれ以降も見据えて、水都大阪の魅力を知ってもらう取組みを積極的に進めていることがわかりました。

船での移動は陸路や空路とは異なり、水辺の風景をゆったりと眺めながら、のんびり過ごすことができる反面、ややもすれば、退屈することもあるのではないかと思います。そのため、舟運事業者とも連携して、船内でも楽しめる工夫をするなど、引き続き、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

2 オーバーツーリズムの未然防止について

①観光客の増加に伴う社会課題への対策

さて、すでに多くの議員から紹介されているように、観光に関する統計では、訪日外国人数が過去最高となるなど、観光分野がこの上ない盛り上がりを見せています。

私の地元であり、大阪の代表的な観光エリアである「ミナミ」も、多くの観光客で賑わっています。このエリアは、コロナ禍で多大な影響を受けたところであり、当時私が目視で調べた時短営業制限区域では、1階の店舗だけで、9

〇〇件の店が閉店していました。空中階の店舗を含めると数万件が疲弊していました。

事業者の方からは「観光客が戻って良かった」「もっと多くのお客さんに来てほしい」という声が増え、私としては大変嬉しく思っています。

一方で、このエリアでは、観光客の増加に伴い、「ゴミ箱が少なく、ポイ捨てが多くなった」「観光客が利用できるトイレが少ない」などというお悩みの声も多くなってきたところです。大阪市に問い合わせたところ、相合橋の公衆トイレは3月から、建変工事がされますが、戎橋横のトイレは入札が不調になったと聞いています。

現在、これらの声に対しては、地元の商店街組合が中心となり、ゴミ箱の設置やトイレの貸出など、独自でおもてなし対応をしてくれているとのことですが、今後、観光客が増える状況が続くと、いずれ限界が来るだろうと不安な意見も出てきています。

オーバーツーリズムの未然防止



今後、こうした観光客の増加に起因する問題への取組みについては、行政がしっかりと支援し、社会課題とならないよう対策を講じることが必要だと考えていますが、大阪府として、どのように取り組んでいくのか府民文化部長に伺う。

【松阪府民文化部長】

観光客の集中する地域で発生する社会課題には、観光客の満足度向上と、受け入れる地域との調和を図るための対応が重要。

府としては、来年度から、ごみの量を検知して圧縮を自動で行う「スマートごみ箱」を設置する市町村等に対する補助や、観光客が利用できるトイレの位置情報を示す「デジタルマップ」の運用開始など、受入環境整備の充実を図ることとしている。

こうした、市町村や民間事業者による取組とも連携しながら、より多くの観光客が快適に大阪を楽しんでいただけるよう積極的な事業展開を図ってまいります。

(坂上 敏也議員)

ゴミやトイレの課題に対する取組みを強化されるとのことで、大変うれしく思います。

しかし、ミナミエリアの事業者に聞いたところ、補助対象が設備の初期費用のみであり、対象とならないゴミ処理費のほか、トイレ利用に伴う水道代、清掃費といった維持費が悩みの種との声がある。

道頓堀商店街だけで、ゴミ収集費用が月額１００万円年間１，２００万円もの負担が商店街組合に課せられています。個人的には、何とかこのようなランニングコストへの支援もできないだろうかと思っています。もちろん、ゴミ処理や水道にかかる費用は、基礎自治体が整理・検討すべき課題であると理解しており、ミナミエリアについては、大阪市でも地元の方々と共に何とかしていこうという動きもあります。

大阪府においては、このような市町村の取組みに対しても、協力いただくよう要望しておきます。

2 オーバーツーリズムの未然防止について

②ナイトタイムエコノミー推進の取組み

次に、「ナイトタイムエコノミーの推進」について伺う。

ナイトタイムエコノミーについては、昨年１２月議会において、我が会派の森議員からの質問に対し、府民文化部長からは「大阪観光局と連携し、行政や民間企業も含めたプラットフォームの立ち上げを検討する」との答弁をいただいたところですが。

夜間の観光コンテンツの充実は、大阪の経済を潤すだけでなく、先ほどの質問でも触れた、日中の時間帯におけるミナミエリア等での混雑緩和という点でも大きな効果があると考えています。

４月に始まる「大阪・関西万博」は夜１０時まで開場し、さらに、２０３０年に開業予定の「大阪ＩＲ」は、２４時間営業と聞いています。これらに来場される方に、大阪の夜を楽しんでいただくには、ナイトタイムの取組みを加速させる必要があると思います。

前回の質問から３カ月が経過したところではありますが、改めて、ナイトタイムエコノミー推進の取組み状況について、府民文化部長にお伺いします。

【松阪府民文化部長】

夜間の消費活動を促す「ナイトタイムエコノミーの推進」は、大阪の経済活性化に資するほか、観光時間の拡大による旅行者の満足度向上にも繋がること期待される。

本府としては、万博開催にあわせて、今年４月から、御堂筋イルミネーションを開始するほか、点灯時間の延長に向けた取組みを進めている。

併せて、大阪観光局が中心となり、現在、民間事業者に対して、御堂筋イルミネーション点灯期間中における連携・協力について、呼び掛けを行っているところ。

今後とも、新しい夜の価値を創出し、大阪が昼夜を問わず楽しめる都市となるよう、大阪市をはじめ関係機関と連携しながら取り組んでまいります。

（坂上 敏也議員）

よろしくお願いいたします。

3 I Rにおける送客機能について

次にI Rについてお伺いします。

外国人観光客における訪日観光人気が高まりを見せており、昨今の観光動向によりますと、2024年におけるインバウンド数は、これまでの最高である2019年の約3,200万人を超える約3,700万人となり、また、旅行消費額は昨年の5.3兆円を上回る8.1兆円となり、この経済効果には飲酒は含まれていないので、それを合わせると10兆円は超えていると思います。いずれも過去最高となっています。国においては、2030年のインバウンド数を6,000万人とする目標を掲げているところであり、この傾向は今後も引き続くものと見込まれ、観光産業の重要性はますます高まっていくものと考えられる。

大阪は、関西国際空港や伊丹空港、また近隣の神戸空港、そして天保山客船ターミナル、鉄道・高速道路等の豊富な交通アクセス手段を有しており、外国からインバウンド客を受け入れ、そして日本各地へ送り出すポテンシャルの高い都市と認識しています。

しかしながら、一部のインバウンド客がそうと知らず、西日本観光のために、大阪ではなく東京を経由して来日する事例もあると聞いているところです。大阪I Rでは、カジノ行為区画は総延床面積の3%以内であり、その他97%以上もの区画は、MICE施設やエンタメ施設などが設置され、年間約2,000万人もの来訪者を見込んでいます。この集客に加え、来訪者を魅力ある観光地が豊富にある府内や、そこから更に関西一円に送り出していくことも今後の観光振興のためには大事なことだと思いますが、どのような取組がなされていくのか、I R推進局に確認する。

【坂本I R推進局長】

I Rは、世界中から観光客を集め、全国各地の魅力を紹介し、国内各地に送り出すことにより、世界と国内各地をつなぐ交流のハブとなることで、国際競争力の高い魅力ある滞在型観光を実現することが目標の1つとされているもの。

大阪ＩＲにおいては、送客施設として、ショーケース機能とコンシェルジュ機能を備えた関西ツーリズムセンター、バスターミナルなどを設置し、日本各地の自然や歴史、魅力的なスポット等の観光情報を提供するとともに、大阪観光局をはじめとするＤＭＯ、広域の自治体等との連携体制を構築することにより、大阪・関西・西日本を中心に、日本全国への送客と周遊観光に取り組むこととしている。

現在、大阪観光局においては、大阪府域の魅力ある観光スポットを巡るサイクリングモデルコースの作成・情報発信など、府域への観光客の周遊促進に取り組むとともに、大阪から全国へ送客する「日本の観光ショーケース」事業として、温泉や健康・美・長寿など日本が世界に誇るテーマに沿ったコンテンツ整備を送客先の関係者とともに進めているところ。

今後、そうした取組も踏まえ、本府・ＩＲ事業者・大阪観光局等で連携を深め、開業後にはＩＲの送客施設において、観光ルートに関する効果的な情報発信を行い、ＩＲから大阪府域や関西・西日本・日本各地へと観光客を周遊させていくことで、日本観光のゲートウェイ形成をめざしていく。

（坂上 敏也議員）

開業まであと５年半。大阪観光局等と連携して取組を進め、２０３０年秋頃のＩＲ開業時には集客とともに送客機能も十分に発揮し、大阪がハブとなるゲートウェイ都市を実現できるよう、しっかりと準備を進めていただきたいと思います。



4 大阪マラソンの運営方法について

大阪マラソン 2025 が、ボランティアをはじめとした関係者のご尽力により、無事開催されたところです。

私も以前スタートセレモニーを観戦したが、府庁前から3万4,000人のランナーが駆け抜ける姿は圧巻で、好記録が出たことや、スタート前の小学生と親子によるキッズ1Kチャレンジや生活用車いすによるレースなどもあり、大いに注目を浴びる大会であったと思います。

今回の大会は、大阪・関西万博の開幕目前の開催で、万博の機運醸成や大阪の都市魅力を発信する絶好の機会となりましたが、参加者から聞いたところ、運営面での不手際があり、例えば、手荷物の引き渡しに最長で2時間以上かかるなど、これまで積み重ねてきた大阪マラソンのイメージを損ないかねない状況であったと聞き、とても残念に思っている。

大阪を代表する一大事業として、都市魅力の向上にも大きく影響する事業であり、来年も多くの方に参加いただくためには、次の大会に向けて、しっかりと対策を講じる必要がありますが、どのように対応していくのか府民文化部長の所見を伺います。

【松阪府民文化部長】

第13回目となる「大阪マラソン 2025」は、過去最高の3万4000人を超えるランナーが参加し、大会を支える約7500名の一般ボランティア、約1000名の医事救護スタッフ、さらに沿道には110万人の観客の応援をいただきながら開催することができた。

しかし、議員ご指摘のとおり、大阪城ホールのアリーナに設置したランナーの手荷物引き渡し場所において、フィニッシュ後の引き渡しに時間を要する状況が発生したという報告を受けており、長時間お待ちいただくこととなったランナーの方々はもちろん、対応されたボランティアの皆様にもご迷惑をおかけした。

こうした事案も含め、大阪マラソン組織委員会では、大会終了後直ちに、課題の詳細な分析と、ランナーを最優先とした運営方法の改善策の検討に着手し

ているところであり、大会主催者である大阪府としても、多くのランナーに安心して参加いただける大会となるよう取り組んでまいります。

（坂上 敏也議員）

大阪マラソンは、誰でも気軽に参加できる市民マラソンとしてスタートした大会であるという原点をふまえ、次回大会に向けて、市民ランナーに重きを置いた運営方法の改善にしっかりと取り組んでほしい。また大会季節も考慮して頂きたい。大きな競技大会を目指す目的のランナーには2月は記録を出せる絶好の時期かも知れないが、待ち時間やゴール後の脱衣までのことを考えると市民マラソンを楽しむ方、ボランティアの方々には寒すぎる時期を避けるべきではないかと思います。



以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。